

安保・戦争国会粉碎へ！

全学連（斎藤郁真委員長）書記局通信

2015年3月14日
No.275

Tel 03-3651-4861
mail_cn001@zengakuren.jp
<http://www.zengakuren.jp/>

全国学生の3・11感想②

●法大文連書記長・山本一如

今年の3.11で最も核心的なことは、「被曝労働拒否」がついに入ったことである。なんとなしに原発反対ということも出来るし、原発なくせということも出来る。だがそれでは力ある運動にはならない。大学で御用学者を弾劾・追放する闘いも重要だが、何よりも原発を動かしている作業員がストライキに入ることが最大の力となるのだ。

秒読みというほどではないのだが、原発労働者の組合結成がついに射程に入り始めた。そのための診療所であるし、福島大の弾圧粉碎の闘いであった。言葉を借りているわけでもないが、「われわれは、あらゆる試行錯誤を含めて無駄なことは何一つしてこなかった」のだ。

この帰結が今年の3.11だ。特に動労水戸の創って来た闘いが反映されている。これを模範として原発・除染・自治体・郵政など、あらゆる労働者が立ち上がるだろう。福大弾圧を粉碎し、新たな労働者・学生が立ち上がってゆく可能性を切り開いた。その最大の旗振り役は福大の樋口君であった。彼の屹立がなければ、この地平はなかっただろう。

ブルジョワジーによる生活を盾にした圧倒的な物量（特に賃金等金の問題）と、大学や司法機関を使ったイデオロギー利用といった、あらゆる敵の攻撃の中で、我々だけが対抗できている。それは社民党や共産党と違い、相手の土俵に乗らない闘いが出来ているからだ。いわゆる既成左翼は、その物量において対抗できる場合しか勝利し得ないし、この資本主義社会において社会の主役であるブルジョワジーの物量に勝つことはできない。だから最後は現場の頭越しに妥協案を呑んでゆく。今年社共は3.11の集会を福島で行わなかった。鎮魂と同時に、生活を奪われた怒りを揚げる日にしなかったのだ。これだけをとっても十分説明にたると思う。

最後に、福島現地行動隊に参加した地平から言うが、放射能はあらゆる現象の影に存在している。東京に帰ってきて喉風邪を引いたが、純粋に事務所が乾燥していたのと同時に、毎日紅茶を飲むために水道の水をあつためて飲んでいたこともある。これだけを取れば放射能の影

響ではないと言えるのだろう。100%放射能のせいではないのだが、決してゼロではない。なぜならそこに放射能があるからだ。

だけどその中でしか生きられない福島の人たちをそのままにしておき、疫学調査によってデータだけを持っていく国がある。放射能を安全であると強弁し、お墨付きをつける学者が居る。この学者どもを一掃出来るのはやはり学生だけだ。

我々文連は大久保利晃という日本最大の御用学者と対峙している。こいつを呼んだ法大が対峙している。福島で勝つには、ここで勝つしかない。2012年の10.19は我々が旗振り役になったからこそ1000人が集まった。あれをもう一度作っていききたい。

●神奈川大・吉田

この3.11に向け、福島現地に2週間滞在して情宣し、首都圏でもビラをまいたり共同診療所の医師による講演会を企画したりと、いろいろやってきましたが、そういった今までの自分の頑張りが一定反映された集会とデモになったのではないのでしょうか。福島で街宣をしていて出会った高校生が集会で発言をしてくれましたし、首都圏の講演会に来ていた方が3.11にもわざわざ新幹線を使って来てくれました。

また、自分が福島現地にいた時に起こった2.3不当逮捕の弾圧を跳ね返して、奪還された古郡さんが司会を務め、むしろ弾圧をバネにして逆に福島大学での当局との力関係を決し、新たなつながりも生むことができました。集会で発言した高校生の「世界の闘う仲間がいる、心強い」という発言は僕たちの路線に獲得されてきているのかなと、空気が入りました。仮設をはじめとして、福島現地で求心力を持ちつつある共同診療所に対する過激派キャンペーンがこの間ありましたが、そういった権力やマスコミの狙いを超えて、仮設の住民が集会で発言したことも、一つの勝利だったと思います。他党派が屈服していき、福島で声をあげる勢力がほとんどいない今こそ、3.11福島行動の意義と求心力はより大きくなったと思います。

これらの力で、今回来れなかった怒りをもった人たち

もこれから獲得して行き、来年の3.11には一緒に声をあげたいです。

また、「なぜ他の勢力は屈服していく中、自分たちは福島で声をあげられるのか」という事の重要性も再確認しなければならないとも思いました。最後の郡山駅前で集会も動労水戸、動労千葉の青年部が先頭になってやりぬき、大きな注目を集めたと思います。平日という事もあって通行人がそれほど多くなかったのは残念でした。1000人以上の結集でしたが、もっと集めたいなという気持ちもあります。1000人であれだけ盛り上がるのだから、2000人、10000人集まったらどうなるのか、ワクワクです。

この間いろいろ矛盾を抱えて悩んでいましたが、現地で3.11実行委員会の椎名さんや国労郡山工場支部の橋本さんと話し、弾圧を打ち破り、この集会が成功する中で、「がんばってみるか」という気分になりました。主催の橋本さんや福島大学でがんばる樋口さん、反被曝で屹立する動労水戸の方々、こういった心強い仲間のおかげで自分も、そして福島の怒りを持った人たちも声をあげられるのだと思います。

世界の闘う人々とも連帯し、福島切捨てを許さず、全原発を廃炉にするために、これからも元気出していきましょう。

●首都圏学生・B

今年の3.11集会は「戦争か革命か」という時代ではなく、革命が労働者階級の戦いが圧倒しているということを示す集会だった。今、3月1日に常磐自動車道の全面開通とJR常磐線の全面開通に伴い、被曝を強制させている。そもそも原発事故後の避難民が12万人という中で、4年目の仮設住宅暮らしを強いられ、2020年の東京オリンピックに伴う都市への流入とそれと一体で福島の住宅建設が一切進んでいない。こうした現実が労働者が被曝を強制させられているのと一体で外注化・非正規職化で生活保護を受けなければ生活そのものが成り立たない現実を追いつめている。

この中でやはり求められているのは「革命派」の存在がすべての職場、キャンパスでこそ決定的だということ

が一番重要です。福島の医療労働者が2.3弾圧があって一旦は継続議論できず離れてしまったが、何回も何回もマルクス主義の学習会を追及する中でもう一回繋がることのできた。反原発の弾圧にたいしマルクス主義によって団結できる情勢だということである。

城台さんの発言で「本当は避難しかないはず。反戦・反核・反原発でヒロシマ-ナガサキと繋がることが重要」「そもそも原発反対というのは権力粉砕以外ない」と言ったのが印象的で、こうした立場が今求められている。全世界での戦争か革命かの情勢の中で「革命派」だけが労働者にたいする弾圧を団結に転化してきたし、いわゆる左翼とよばれる党派が弾圧を通じて安倍政権に屈服していく中で唯一絶対反対でたたかってきたからだ。

やはりここで福島共同診療所の布施さんが発言していたが、「福島民友では福島共同診療所を過激派とよんでネガティブキャンペーンを貼って甲状腺ガンで苦しんでいる患者を遠ざけている。甲状腺エコー検査や仮設住宅を回って診察しているし、その中で仮設住民であり福島の人々と団結し信頼を勝ち取っている。福島民友が言っていることはそのとおりだ。だからこそ彼らが一番いやがっていることをどんどんやっていく。」ということが労働者階級の解答だ。動労水戸がやっている被曝労働拒否の戦いは今の福島での復興政策と一体の戦争による新自由主義にたいし万の規模で労働者を必ず獲得できる情勢を引き寄せている。除染労働者とながら復興政策そのものが内部からぶち破られている。

この中にこそ既成の左翼を打倒し「革命派」に労働者が陸続と決起していつている。マルクスは労働者を「変革の心臓」と既定して、「労働者の団結こそが社会を変える力だ」としてマルクス主義を体系的に作り上げていった。だからこそ既成の左翼は現場で労働者に敵対する中で、マルクス主義を投げ捨てて民営化・外注化に全面協力し、戦争に協力していく。これを打倒していくのは日本の労働者・学生の戦いだ。

今年の安保国会を粉砕していくために6.15国会闘争で巨万の学生・労働者を丸ごと獲得していく戦いに打って出る。全国学生は6.15国会闘争に集まろう！

【当面する行動方針】

●武田雄飛丸君「暴行」でっち上げ裁判・第9回公判＝判決

3月18日(水) 13時半～ 東京地裁429号法廷にて ※傍聴券配布のため、13時までに裁判所入口脇に集合してください。

●“市東さんの農地死守!” 3・29三里塚全国総決起集会

3月29日(日) 正午～ 成田市栗山公園(旧市営グラウンド)にて

